

# 活動レポート

## リージョナルステート研究会

文責：リージョナルステート研究会幹事 樫 直樹

### 「平成24年度 リージョナルステート研究会 臨時総会及び講演会」報告

#### 1. はじめに

平成24年6月22日(金)、「平成24年度 リージョナルステート研究会 臨時総会及び講演会」を開催いたしました。

開催場所：札幌エルプラザ2階、環境研修室1・2  
 開催時間：18：30～20：00  
 参加人数：19名

以下に、リージョナルステート研究会の開催内容について報告させていただきます。

#### 2. 臨時総会

臨時総会は、旧教育分科会が独立したことを受けて、役員編成、会則改定が必要となり臨時総会を開催することとなりました。併せて、平成23年3月理事会において「北海道支部」から「北海道本部」に名称変更が認められたことと、平成23年4月11日付けで「社団法人日本技術士会」から「公益社団法人日本技術士会」に法人名称が変更されたことを盛り込んだの改正となりました。新役員は、武智代表と阪副代表、滝澤幹事長の体制で活動することになり、会則改定も含めて議案は承認されました。(写真-1、2 参照)



写真-1 開催状況

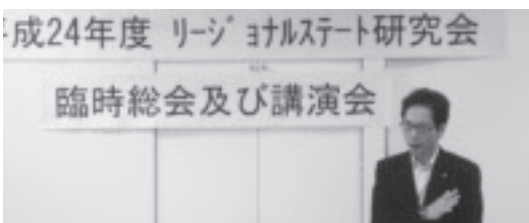


写真-2 武智新代表挨拶

平成24年度活動計画では、循環技術システム研究分科会、地域主権分科会から活動計画内容を報告し、承認を受けました。(図-1、2 参照)

本年度について、循環技術システム研究分科会では、約1カ月毎の定例会文責：技術交流研究会幹事長 吉野大仁の他に施設見学会(8月：せたな町洋上風力発電施設、9月：白老町バイオマスプラント発電施設)も計画しており、自然エネルギーに関する活動を取りまとめていく予定です。

地域主権分科会では、札幌開催の定例会を中心に活動していましたが、4月には釧路開催が実現し、「釧路市街地の活性化や分県論」についての活発な意見交換が行われました。それら定例会等を踏まえて北海道を自律的発展へ導く方法論を検討していく予定です。

循環技術システム研究分科会 平成24年度活動計画	
平成24年4月2日	定例会(H24活動計画策定)
平成24年5月21日	定例会 講演会「バイオマス発電の現状と課題」 講師：伊藤等氏(技術士 環境部門)
平成24年7月9日	定例会 講演会「洋上風力発電の概要について」 講師：せたな町役場 平塚清人氏
平成24年8月24日	施設見学会① ・せたな町洋上風力発電施設
平成24年9月21日	施設見学会② ・白老町バイオマスプラント
平成24年11月5日	定例会(自然エネルギー活動のまとめ)

図-1 循環システム研究分科会活動計画

地域主権分科会 平成24年度活動計画	
これまで、地域主権を考えるための具体的な「テーマ探しの旅」 外国から見た北海道として「中国の方」、「訪日外国人を惹きつける」、「北海道農業の六次産業化の行方」、「森林・林業・木材」、「まちづくりの現場から地域を考える空想」、「(できない)を(できる)に変える実働力」などの講演をいただいた	
平成24年4月12日	釧路での定例会 ・釧路市中心市街地活性化 ・北海道分県論
平成24年5月21日	定例会 ・北東アジアターミナル構想
平成24年7月下旬	定例会 ・北海道における情報ネットワーク基幹システム

図-2 地域主権分科会活動計画

### 3. 講演会

講演会は臨時総会后「LCCと道内航空網の展望について」と題し、武山事務所株式会社代表取締役武山泰典氏(技術士：総合監理・建設)に講演いただきました。

武山氏は卒業後、北海道庁に入庁し、土木部の技術職(道路)や都市計画(交通計画)を経て総合企画部交通企画課で空港政策を担当しております。また、道庁を退職してから、新千歳空港国際線ターミナルビルなどの計画・設計・工事管理・運営、LCCやビジネスジェットサービス施設誘致交渉などに携わり、ターミナルビルの管理責任者も経験されております。

#### 【講演概要】

LCCとは、効率的な運営により低価格の運賃で運航サービスを提供する航空会社を指します。米国の航空自由化を契機に登場し、世界的に航空規制緩和が進む中で世界各地に数多く誕生してきました。



写真-3 講演会状況

空港は、元々豊かな人が活用するものと考えられてきました。しかし、LCC導入のようにサービスを必要最低限度に留めてトータルコストを低減することによって、利用者が求めるサービスさえ適切に行われれば顧客満足度が得られるはずなのです。東南アジアの例では、搭乗料金が低廉化することで、これまで諦めて行っていなかった旅行が出来たり、他の交通機関からの乗換えが増えるなど、新たな利用者は確実に増大し、「これまでのサービスは何だったのか、過剰だったのではなかったのか」、「過剰なサービスよりも低価格だ」のように利用者の意識改革が自然になされるものと考えられます。現にLCC先進国の米国では、このような意識改革がキーワードとされています。

北海道においても航空機が、地下鉄やJRと同様なコスト意識の中で利用されれば、地下から空まで様々な交通ルートを選択が可能となり地域活性化に

つながります。例えば、札幌～東京間が5千円であればグルメ目的の旅も容易になるのではないのでしょうか。そのため、LCCは、今後の地域経営の大きな資源の一つとなり得ると考えています。

まずは、我々北海道民がLCCに興味を持ち、利用することから始めましょうと、導入間もないLCC利用の動機付けともなるご講話を頂きました。

なお、購入の仕方はインターネットで予約・プリント(バーコード入り)し、搭乗時にそれを機械に通すだけでOKですので是非この機会に試していただきたいと思います。



図-3 講演会資料(エアアジア)

### 4. おわりに

リージョナルステート研究会は、平成10年の誕生から14年を経過しようとしています。その間に、東日本大震災も含めて目まぐるしく社会情勢が変化しており、北海道を活性化させる資源(ツール・アイテム)も、絶えず研究を続ける必要があります。

地域の実情を踏まえた上で、北海道が自律的に発展してゆくには、過去に議論されてきたテーマをもう一度現在に照らし合わせて勘案し、「今、私達技術士が何をなすべきか問い、できることから実践していく、能動的な理念と具体的な活動を原点」に分科会活動を盛り上げていきたいと考えております。

また、6月から新体制での活動を向かえて間もないため、これを機会と一緒に「魅力あふれる北海道を創出したいとお考えの方」は、会員(メンバー)募集中ですので、是非HPよりご参加ください。よろしくお願い致します。

最後に、講演会開催にあたりご協力頂きました講師にお礼を申し上げ、ご報告と致します。